

も の づ く り

今月は
酒田共同火力発電株式会社



発電所外観

探 訪

10

産業クラスター創造事業
さかた技術者ネットワーク構成員

酒田共同火力発電株式会社
発電所技術グループ

阿部 昌人さん



平成22年6月に設立された「さかた技術者ネットワーク」。市内企業の若手技術者で構成されるメンバーが、企業が持つ優れた技術力や製品を紹介します。

県内の消費電力量50パーセントを発電

当社は昭和48年に重油焚き火力発電所として創立、石油価格の高騰もあり昭和59年に1号機、平成4年に2号機を石炭焚きに転換しています。発電出力は1号機、2号機合計で70万キロワット。年間の発電電力量は山形県内の消費電力量の約50パーセントに相当します。

昨年からは電力会社の配電線保守作業で発生する伐採木を使用した木質燃料を一部使用しています。CO₂排出量の削減に取り組み、環境保全安全・安心を最優先とした電力の安定供給に努めています。

石炭灰の有効利用

発電所では年間約150万トンの石炭を使用します（酒田港の取り扱い貨物量の約50パーセントに相当）。石炭を燃焼すると10パーセント程度の石炭灰が発生します。この石炭灰は、セメント原料や混和材（JIS規格）、グラウンド造材などとして100パーセントリサイクルしており、市内の高校グラウンド整備工事などに活用いただいています。

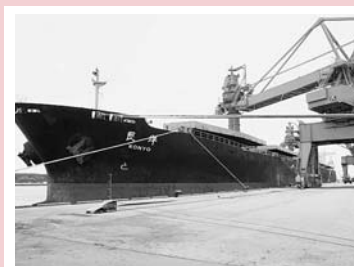
今後、地域と共生するエネルギー企業を目指して、地域と共生を図りながら事業活動を展開していきます。

石炭輸入から発電までの工程



安全・安心・高品位な電力の安定供給

1 石炭の陸揚げ
(燃料となる石炭は、中国、オーストラリアなどから船で輸入)



2 石炭の貯蔵
(2棟ある貯炭場には20万トンを貯蔵、40日間発電できる量に相当)



4 発電
(蒸気でタービンを高速回転、直結した発電機で発電)



3 燃焼
(粉状にした石炭をボイラーで燃焼、水を加熱し高温高压蒸気へ)



[企業の概要]

昭和48年創立。昭和52年1号機運転開始。昭和53年2号機運転開始。昭和59年石炭焚1号機運転開始。平成4年石炭焚2号機運転開始。

商 号：酒田共同火力発電株式会社
住 所：酒田市宮海字南浜1・19
資 本 金：255億円
代 表 者：取締役社長 天笠 俊介
従業員数：105人
事業内容：火力発電による電気の卸供給、産業廃棄物の処理、発電設備の運転受託